

2012年10月13日～14日 四国剣山～石鎚山より

10月14日 愛媛松山観光

Reported by 小野寺

参加者:吉松さん・石井さん・岡部由紀さん・小野寺

そして… 今村清典さん(ガイドをかってでて下さいました)・永井源一郎さん/三鈴さんご夫妻(サプライズ参加)



5:30 起床。向かいの道後温泉本館(坊ちゃん湯)は、既に灯がついていました。(ホテル窓より撮影)



温泉だけでなく、施設見学した後に奮発して霊の湯 2F(入湯料¥1,200)へ。石鹼・タオル・浴衣・茶菓子付。

皇室専用「又新殿(ゆうしんでん)」は、御影石の浴槽や金箔襖の控え室間、漆塗りのトイレなどをガイド付きで見学。残念ながら撮影不可。



6:00 過ぎ。朝から盛況です。建物は重要文化財指定。



3階個室からの景色。並びに「坊ちゃんの間」。



振鶯閣(しんろかく)

刻太鼓。朝 6 時(開館)、正午、午後 6 時に鳴らされるそうです。

足を痛めた白鶯が浸っていたのが道後温泉発見の伝説らしく、このテッペンにも館内あちこちにも白鶯のモチーフがある。

道後温泉の歴史は超一級で、「伊予国風土記」や「日本書紀」に地名が散見され、大国主命や少彦名命、更には聖徳太子も訪れたとか、様々な逸話があるらしい。



朝食後、ロビーで一休み。
9:00 今村さんと待ち合せ、松山市内観光へ出発。



山門(国宝)。左右には金剛力士像。



四国八十八箇所礼状 第51札所「石手寺」

← 参道にはお店が連なる。
寄進額なども年季が入っている。



↑参道に出店していた仏壇用の棕櫚箒屋さん。
「手作りしているのは、もうボクだけだよ」とのこと。



真言宗豊山派 熊野山 虚空蔵院
本堂(重文)。ご本尊は薬師如来。病気平癒の祈願が多いとか。(写真は寺院 HP より拝借)



←三重塔(重文)

昔、伊予国豪族の一門に衛門(えもん)三郎という人があった。ある時、門前にみすぼらしい托鉢僧がやってきたが、それを邪険に追い払った。以来、衛門家には不幸が続く。三郎は、あれは弘法大師様であったかと悔い改め、大師を追って旅に出る。これが巡礼の始まりとのこと。

さて、三郎。死の間際に大師が現れ、非を詫びる。大師は三郎に石を握らせ臨終する。

ある年、石を握って生まれた赤ん坊があり、その石は「玉の石」として石手寺の寺宝となっている…云々。

今村さんの名ガイドつぱりったら！ お金取れます(笑)。



裏手の山に「マントラ洞窟」とやらがあり、入ってみた。意外と深く、構内薄暗い。ところどころ灯りがあるところに、ありがたいお言葉の札がおいてある。

←寺院側からの入口

↓洞窟内は、こんな感じ。



←出口…なのか入り口…なのか



道後温泉の振鶯閣をモデルにした時計塔が…



道後温泉駅前。坊ちゃん電車(路面電車)の終着駅。

10:00

このロータリー広場にあるカラクリ時計を見学。

上に伸びて、各所から夏目漱石『坊ちゃん』の登場人物が登場します。のどかな音楽でゆるりゆるり動きます。



湯築城*公園の横に「市立子規記念博物館」
(入館料￥400)

* ゆづきじょう。戦国時代、伊予国守護・河野氏居城。その後、福島正則も城主になるも後に廃城。

子規の絶筆「痰一斗糸瓜の水も間にあはず」*なども展示。

*糸瓜(ヘチマ):結核の痰切薬としてヘチマが用いられた

館内では、地元の小学生による俳句大会の表彰が行われていた。…さすが、正岡子規の故郷！



[子規堂] 16歳で上京するまで住まつた居室を再建。



子規の遺髪塔。手前には与謝野晶子の句碑。

“子規居士と鳴雪翁の居たまえる
伊予の御寺の秋の夕暮” 晶子



秋山兄弟生誕地(入館料¥300)

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、全国区に知られた秋山好古(よしふる。陸軍大将)・真之(さねゆき。海軍中将)兄弟生誕地に、生家を再建。

庭にはザクロやダイダイが鈴生り。



“春や昔十五万石の城下哉” 子規

松山城へ。

行きは時間短縮のためリフト(¥260)を利用。

賤ヶ岳の合戦で有名な七本槍の1人、加藤嘉明が築いた四国最大のお城。江戸時代最後(1854年再建)の城郭建築で、天守閣は重文指定。





昨日の石鎚山が、枝の向こうにうっすら見える。



13:00 近くなり、お城を下り、お昼にする。

← 勝山(標高 132m)にそびえ立つ松山城

お城のふもとの城山公園では B 級グルメイベントが大盛況。

「あいテレビ開局20周年記念イベント」とのこと、大仰な撮影機材も設置されていた。

ここで、「お昼はこの辺にいるんじゃないかな」と当たりをつけて出かけていらした永井夫妻に見事に遭遇！

皆で手分けして並び、食料 Get。

愛媛県各地の屋台料理を頂きました(^人^)





永井夫妻も交え、

坂の上の雲ミュージアムへ。(入館料¥400)

2006年完成の安藤忠雄設計の斬新な建物。中は表参道ヒルズ同様にゆるやかなスロープで階を上がるようになっている。

ビデオや資料を丁寧に見たら3時間はかかりそうな充実ぶり。産経新聞に連載された「坂の上の雲」全記事を一面に張り出した壁面は圧巻。

企画展はポーツマス日露講和会議。

萬翠荘(ばんすいそう)

1922年、旧松山藩主の子孫久松定謨(さだこと)伯爵が別邸として建てたフランス風洋館。



今村さんに空港までお見送り頂き、帰途へ。



イベント施設やレストランなど紆余曲折の末、現在は愛媛県立美術館分館として利用。室内もステキ♥



ちょっと曇ってるけど、瀬戸内海の夕焼け。

松山の皆様、お世話になり、ありがとうございました。

